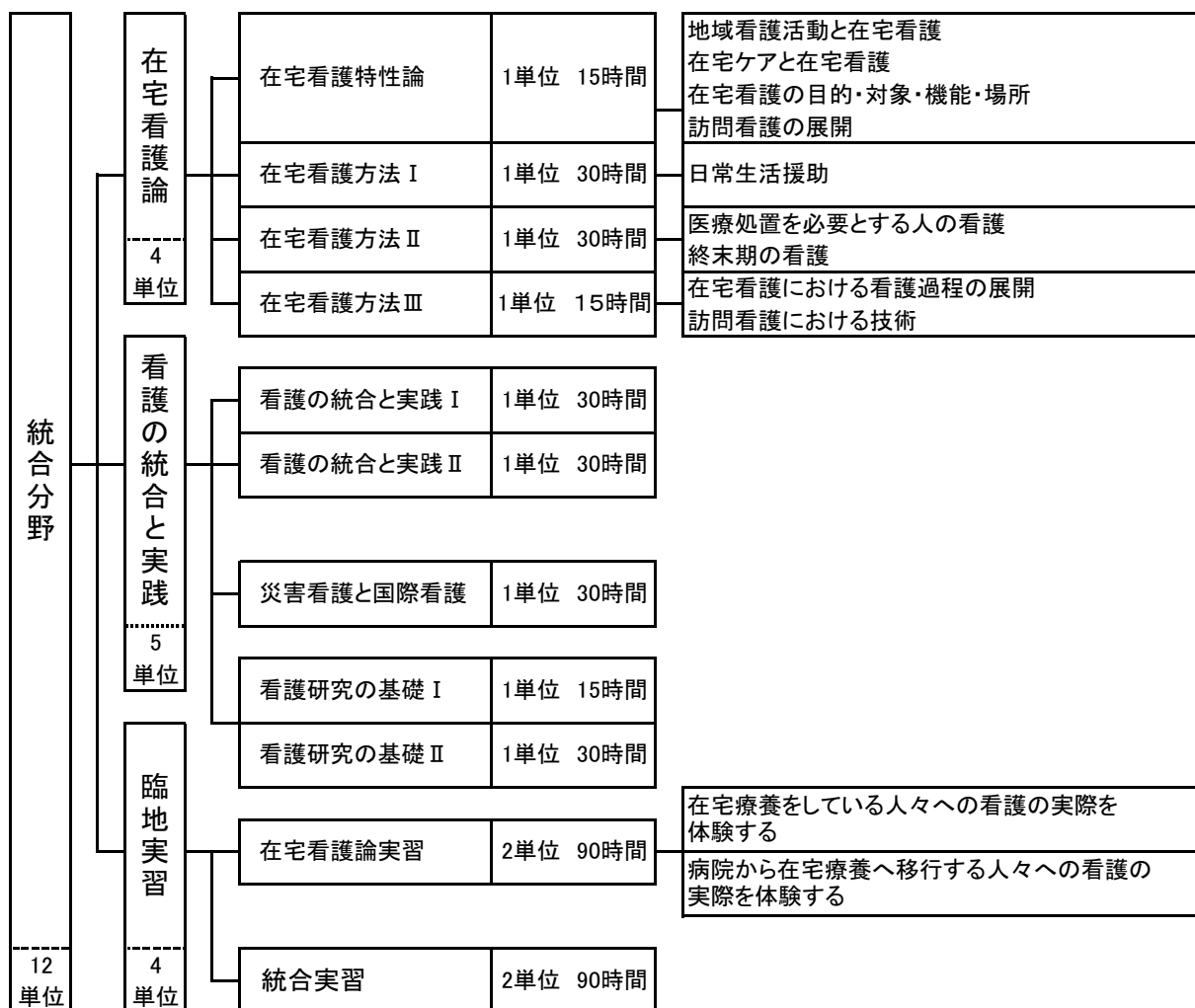


(5) 統合分野

【ねらいと構成】

- ・在宅看護論では地域で生活しながら療養している人々とその家族を理解し、対象が望む生活の質を維持・向上させることを目的とした看護の基礎を学ぶ。
- ・在宅看護特性論では在宅看護が必要とされる背景を考え、看護の目的・対象・機能を理解するとともに在宅ケアの概要と他職種と協働する中での看護の役割を学ぶ。
- ・在宅看護方法では在宅看護の中心となる訪問看護について学ぶ。
在宅療養を支える条件を理解したうえで、日常生活援助や医療処置を必要としている対象の捉え方を理解し、その基礎的な看護方法を学ぶ。



科目群：統合分野

3年度	授業科目	在宅看護特性論	担当 教員	友原 たき子 村松 奈緒美	単位(時間数)	1(15)
第1学年					担当時間数	15
【友原たき子】						
授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験27年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院勤務(管理者)の経験に基づいて、地域包括ケアシステムや介護保険について制度や必要性を、具体的な事例を講義・グループワークに取り入れている。				
学習 目的 ・ 目標	<p>目的：社会背景から在宅看護を必要とする対象の特性を理解し、在宅看護の目的と法的基盤を学ぶ。</p> <p>目標：1. 社会情勢の変化を理解したうえで、在宅看護の必要性を考える。 2. 在宅看護の目的・対象・機能を理解する。 3. 在宅看護の法的基盤とシステムを理解する。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 在宅看護が必要とされる社会背景	講義	教室		
2	/	・在宅看護に必要な指標	講義	教室	「在宅看護に必要な指標」を調べ、在宅看護の必要性を考える	
3	/	2. 在宅看護とは ・看護の対象者、目的、場所、方法 ・看護の場である家庭や地域とは	講義 GW	教室	自分の24時間の過ごし方と、生活の中で大事にしている事を考える	
4	/	3. 訪問看護制度の確立	講義	教室		
5	/	4. 地域包括ケアシステム、介護保険	講義	教室		
6	/	5. 生活上の課題から、介護保険について考える	GW	教室	事例を読み込み、生活上の課題を考える	
7	/	6. 訪問看護制度	講義	教室		
8	/	試験		教室		
評価方法	45分の試験と課題で評価する。 配点は記述試験90点、課題10点とする。					
教科書	南江堂 在宅看護論 インターメディカ 『写真でわかる訪問看護』 厚生統計協会 『国民衛生の動向』					
参考書						
履修上の 留意点	自分の家族や住んでいる地域と自分との関係を意識して生活すること。 5.6回目の講義は友原講師が行います。					

※実務経験は令和2年4月1日現在

科目群:統合分野

3年度 第2学年	授業 科目	在宅看護方法Ⅰ	担当 教員	村松 奈緒美	単位(時間数)	1(30)
					担当時間数	30
学 習 目 的 ・ 目 標	<p>目的: 在宅看護を必要とする対象の特性と援助方法を理解し、訪問看護における看護職の役割と機能を学ぶ。</p> <p>目標: 1. 家族の健康管理の必要性を理解する。 2. 訪問看護における看護職の役割を理解する。 3. 日常生活の援助方法を理解する。 4. 訪問看護における基本的マナーを理解する</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 病棟内看護と訪問看護の相違	講義 GW	教室		
2	/	2. 在宅療養の成立要件	講義	教室	レポート	
3	/	3. 在宅看護における倫理的課題	講義	教室		
4	/	4. 要介護高齢者への在宅看護	講義	教室		
5	/	5. 家族看護	講義	教室		
6	/	6. 在宅における感染予防	講義	教室		
7	/	7. 介護者の生活を考える(事例より)	講義	教室		
8	/	介護者の生活や思いについて考える (介護者の方の話)	講義	教室	レポート	
9	/	8. 在宅における清潔援助	講義 GW	教室		
10	/	9. 在宅における清潔援助の方法を考える	校内実習 GW	実習室		
11 12	/	発表	校内実習	実習室	レポート	
13	/	10. 訪問看護における看護職の役割	講義	教室		
14	/	11. 訪問看護におけるマナー	講義	教室	事例からどのようにお宅訪問したらよいか考える	
15	/	試験、授業のまとめ		教室		
評価方法	<p>45分の試験と課題と小テストで評価する。 配点は記述試験85点、課題10点、小テスト5点とする。</p>					
教科書	<p>南江堂 在宅看護論 インターメディカ 『写真でわかる訪問看護』</p>					
参考書						
履修上の 留意点	<p>8回目の講義は外部講師と共に行います。 各看護学で学んだことをベースに在宅での看護を学習していきます。</p>					

※実務経験は令和2年4月1日現在

科目群:統合分野

3年度 第2学年	授業 科目	在宅看護方法Ⅱ	担当 教員	及川 高志 村松 奈緒美	単位(時間数)	1(30)
					担当時間数	30
【及川高志】		授業科目に関連した実務経験の内容				
		作業療法士臨床経験12年(訪問看護ステーション勤務経験7年)				
実務経験を活かした実践的な授業内容		訪問看護ステーション勤務の経験に基づいて、在宅で生活する訪問看護を必要とする小児の多職種連携や制度確立の必要性について、具体的な事例を講義に取り入れている。				
学 習 目 的 ・ 目 標	<p>目的: 医療機関と居宅を結ぶ看護の継続性とそれぞれの場での看護師の役割と機能を学ぶ。</p> <p>目標: 1. 福祉用具について理解できる。 2. 医療機関と居宅を結ぶ看護の継続性の視点を理解する。 3. 在宅での医療処置に伴う看護の基礎が理解できる。 4. 在宅における終末期の看護およびグリーフケアについて理解できる。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 在宅難病(ALS)とは	講義	教室	ALSについての学習	
2	/	2. 在宅難病療養者への看護	講義	教室	レポート	
3	/	3. 「なごや福祉用具プラザ」施設見学	講義	プラザ	レポート	
4			体験学習			
5	/	4. 在宅難病療養者を支える制度と社会資源	講義 GW	教室		
6	/	5. 継続看護と退院調整	講義	教室		
7	/	6. 在宅看護におけるチームケア	講義	教室		
8	/	7. 在宅看護を必要とする小児(訪問看護ステーション作業療法士講義)	講義	教室	レポート	
9	/	8. 在宅看護における連携	講義	教室		
10	/	9. 栄養管理(胃瘻、中心静脈栄養)が必要な療養者の看護	講義	教室	教科書を読んで看護のポイントを理解する	
11	/	10. 褥瘡、排泄障害のある療養者の看護	講義	教室		
12	/	11. 呼吸管理(在宅酸素、人工呼吸器装着中)が必要な療養者の看護	講義	教室		
13	/	12. 障がいとともに豊かに生きる(障がいを持った方の話)	講義	教室	レポート	
14	/	13. ターミナル期の看護、グリーフケア	講義	教室		
15	/	試験、授業のまとめ		教室		
評価方法	45分の試験と課題と小テストで評価する。 配点は記述試験80点、課題点15点、小テスト5点とする。					
教科書	南江堂 在宅看護論 インターメディカ 『写真でわかる訪問看護』 メディックメディア 病気がみえるvol.7脳・神経					
参考書						
履修上の留意点	3、4回目は施設見学となります。 8回目の講義は及川講師が行います。13回目の講義は外部講師と共に行います。					

※実務経験は令和2年4月1日現在

科目群: 統合分野

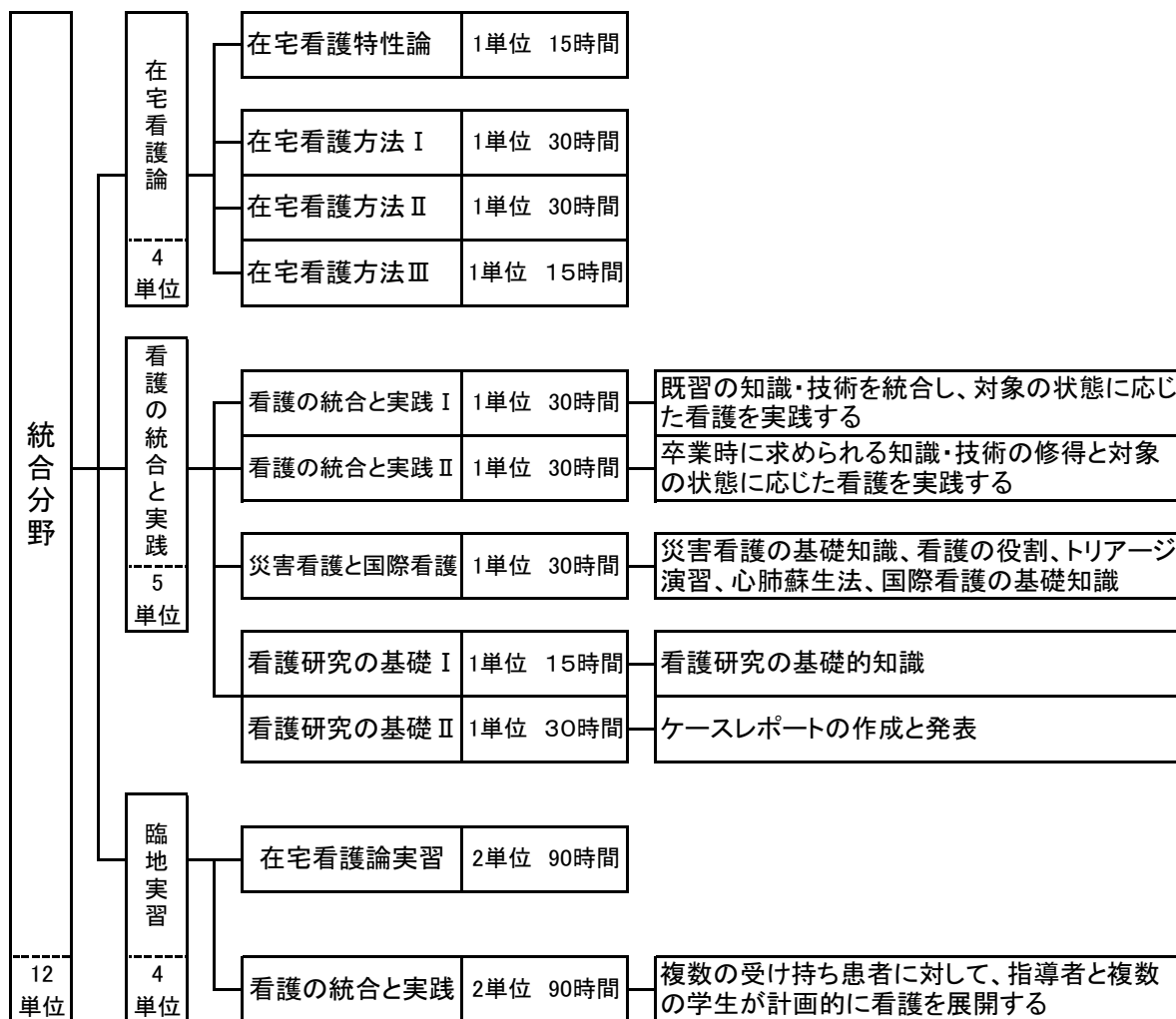
3年度	授業科目	在宅看護方法Ⅲ	担当 教員	村松 奈緒美	単位(時間数)	1(15)
第2学年					担当時間数	15+研修1
学習目的・目標	目的: 在宅看護における看護の展開方法を学ぶ。 目標: 1. 在宅における看護過程の展開を理解する。 2. 基本的な訪問時のマナーを身につける。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 訪問看護における看護過程の特徴 2. Aさん(脳梗塞で左半身不全麻痺)の事例提示 ・介護保険を利用した訪問看護の流れを理解する ・訪問看護で使用する書類を理解する	講義	教室	授業進度にあわせ、課題を提出する。	
2	/	3. Aさんの初回訪問前の情報を整理する 4. Aさんの初回訪問に向けてのアセスメントを行う	講義	教室		
3	/	5. 初回訪問で情報収集する内容を明らかにする ・Aさんの健康障害と治療を明らかにする	講義	教室		
4	/	6. 訪問看護における看護計画を理解する ・Aさんの初回訪問で得た情報を整理する	講義	教室		
5	/	・Aさんの初回訪問で得た情報をアセスメントする ・アセスメントから看護上の問題を導く	講義 GW	教室		
6	/	7. 訪問看護における看護計画を理解する	講義 GW	教室		
7	/	8. Aさんの実践可能な看護計画を立案する	GW	教室		グループワークの結果を提出する
8	/	発表	演習	在宅看護 実習室Ⅱ	今までの課題を整理し提出する	
評価方法	課題とGW資料で評価する。					
教科書	南江堂 在宅看護論 インターメディカ 『写真でわかる訪問看護』					
参考書	「脳梗塞」の事例で行ないます。各自で参考資料となるものを持参して授業に臨んでください。					
履修上の留意点	各看護学で学んだことをベースに在宅での看護を学習していきます。					

※実務経験は令和2年4月1日現在

(5) 統合分野

【ねらいと構成】

統合分野は、看護基礎教育で修得する看護技術と臨床現場で求めるものとのギャップを埋めるための手段とする。学生が基礎的知識・技術を身につけ、臨床の現場で起こりうる場面に対応できるようにする。そこでは、今までに学んだ理論を使い科学的根拠に基づいた看護判断ができ、チーム医療や他職種と協働し自己のもてる力を最大限に活用する。また、臨床に近い形で学習することで、職業人としての自覚や責任を育む。



科目群:統合分野

3年度	授業科目	看護の統合と実践Ⅰ	担当教員	高須 かおり	単位(時間数)	1(30)	
第2学年					担当時間数	30	
学習目的・目標	<p>目的: グループで、既習の知識・技術を統合し、対象に応じた看護方法を考え実践、評価する。</p> <p>目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個々の持てる力を発揮してチーム力を高め、学びあう。 2. 患者の全体像をチームで共有して必要な観察と日常生活援助を考え、実施、評価することができる。 3. ケアを実施する中で、自己の振り返り、グループ内の振り返りを大切にして次回に活かす。 						
回数	学習内容			方法	場所	課題	
1	/	1. 基礎看護学実習Ⅱのねらい、グループ目標を設定 2. グループで、肺気腫(慢性閉塞性呼吸障害)HOT中、肺炎で入院した翌日(1/13)現在のT氏全体像を共有(グループワーク) #4の看護問題に関する看護計画の具体的援助方法を考える			講義 GW	教室	事前課題をもとにグループワーク。ワーク結果を提出 時間外で夏季休暇中の訓練計画作成
2	/	3. グループ目標を可視化して発表(クラス発表) 息切れを和らげる生活動作の提案(グループ内) ケア計画担当をグループ内で決める			講義 GW	教室	
3	/	4. 専門家でグループ・ワーク (清拭・寝衣交換、整容・トイレ歩行・陰部洗浄、洗髪・整髪、足浴・爪切り) ※息切れを和らげる動作指導をケアに入れる			講義 GW	教室	
4		5. グループで援助方法の共有 清拭・寝衣交換、整容・トイレ歩行・陰部洗浄			校内実習	階段教室	
5	/	6. グループで援助方法の共有 洗髪・整髪、足浴・爪切り			校内実習	階段教室	
6・7	/	7. グループで技術訓練 清拭・寝衣交換、整容・トイレ歩行・陰部洗浄、洗髪・整髪、足浴・爪切り 8. 発表グループと評価グループの決定			校内実習	階段教室	
8・9	/	9. 成果発表(クラス発表会)とリフレクション 10. グループ目標の振り返り(中間)と発表(クラス内)			校内実習	階段教室	
10	/	11. T氏の10時の検温 観察視点とその根拠、優先度を考える			GW	教室	
11・12		12. T氏の10時の検温 状況設定をイメージして観察を実践し評価する。 検温結果を記録用紙<3-8>に記録			校内実習	実習室	
13・14	/	13. クラスで全体発表会、リフレクション * 司会・運営方法はクラスで検討(全員が役割をもって参加)			校内実習	階段教室	
15	/	14. 目標の振り返り 基礎看護学実習Ⅱにむけての自己目標設定をする。			GW	教室	
評価方法	事前課題、グループ課題、発表、レポート、授業時間内に行う小テストで評価する。						
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 呼吸器 成人看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 循環器 成人看護学③ 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 成人看護学⑤ 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③						
参考書							
履修上の留意点	主体的に事前学習して授業に参加。グループワークでお互い助け合い高めあう努力をすること。 課題提出の期日は守ること。						

※実務経験は令和2年4月1日現在

科目群:統合分野

4年度 第3学年	授業 科目	看護の統合と実践Ⅱ	担当 教員	中村 睦美	単位(時間数)	1(30)
					担当時間数	30
学習目的・目標	<p>目的: 既習の知識・技術・態度を統合し、看護が実践できる基礎的能力を養う。 目標: 1. ヒューマンケアの基本的能力を理解することができる。 2. 倫理面やリスク面を配慮した看護を理解し、その根拠を考えることができる。 3. 看護の優先度や医療安全の視点を考慮し、看護計画を立案し実践することができる。 4. 複数患者の事例を通して、多重課題における看護の優先度を考えることができる。 5. グループの学びを振り返り、実習に向けてグループの目標を表現することができる。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 看護実践の土台としての知識学習 ・チーム医療 ・看護のマネジメント	講義 演習	教室		
2	/	2. 看護実践の土台としての知識学習 ・ヒューマンケアの基本的な能力	講義 演習	教室		
3	/	3. 看護実践の土台としての知識学習 ・夜間看護について ・学生看護チームの理念を考える ・事例(骨折・肺気腫)をイメージする	講義 演習	教室		
4	/	4. GW ・骨折事例の起こりうる問題や看護の優先度を考慮し24時間の行動計画を立案	講義 演習	教室		
5	/	5. GW ・肺炎・肺気腫事例の起こりうる問題や看護の優先度を考慮し24時間の行動計画を立案	講義 演習	教室		
6	/	6. GW ・2事例をそれぞれ2人で受け持ち、2人で2事例の1日の行動計画立案 ・他のメンバーとGWLし、最終的な1日の行動計画を立案	講義 演習	教室		
7	/	7. GW ・行動計画に基づき実践(事前検討と物品の準備)	校内実習	実習室		
8	/	8. GW ・行動計画に基づき実践(実施)	校内実習	実習室		
9	/	9. GW ・行動計画に基づき実践(実施)	校内実習	実習室		
10	/	10. 演習(教員参加) ・演習の実際(多重課題)	校内実習	実習室		
11	/	11. チームデブリーフィング(教員参加) ・多重課題演習を振り返り、チームでの対応を考える	校内実習	実習室		
12	/	12. クラスデブリーフィング ・チームで考えた対応を発表 ・クラス討議	講義 演習	教室		
13	/	13. チームデブリーフィング ・クラス討議後、再度チームとしての対応を考える	講義 演習	教室		
14	/	14. 発表会(教員参加) ・多重課題演習の発表会	発表	教室		
15	/	15. 授業のまとめ 「授業からの学びと実習で取り組みたい目標」をチームでレポートにまとめ提出する	講義 演習	教室		
評価方法	授業時間内に行う小テスト、グループ課題、発表、レポートで評価する。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 統合 看護管理 看護の統合と実践① メディカルフレンド社 看護管理 看護研究 看護制度 メディカルフレンド社 看護実践マネジメント 医療安全					

科目群: 統合分野

3年度	授業科目	災害看護と国際看護 (災害看護)	担当 教員	相沢 努	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	22
授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験18年、救急看護認定看護師経験8年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		臨床の看護師経験と救急看護認定看護師の勤務経験を活かした講義により、災害時・救急時の看護を講義・演習に取り入れている。				
学習目的・目標	目的: 施設内看護から視野を広げ、国際看護や災害時・救急時の看護を学ぶ。 目標: 1. 災害に関する基礎知識を学ぶ。 2. 災害時の看護の役割を理解する。 3. 心肺停止患者の心肺蘇生法を実践する。 4. 心肺停止患者にAEDを使用できる。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 災害看護の基礎知識、災害に関する制度	講義	教室		
2	/	2. 救急時の看護 ・心肺停止状態への対応/一次救命処置	講義	教室		
3	/	3. 救急時の看護 ・心肺蘇生法の実践(BLSの実践 AEDの操作方法)	校内実習	実習室		
4	/	4. "	校内実習	実習室		
5	/	5. 災害が人々に与える影響、災害時サイクルに応じた看護の役割	講義	教室		
6	/	6. 災害時の看護の役割 ・トリアージの基本と方法・トリアージ机上シュミレーション	講義	教室		
7	/	7. 災害時の看護の役割 ・トリアージ演習、応急処置	校内実習	未定		
8	/	8. "	校内実習	未定		
9	/	9. 被災病院における発災直後の看護活動	講義	教室		
10	/	10. 災害時のこころのケア 災害看護活動の課題	講義	教室		
11	/	試験・授業のまとめ		教室		
評価方法	試験と課題で評価します。 試験は45分で実施し、配点は70点です。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学					
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和2年4月1日現在

科目群:統合分野

3年度 第2学年	授業 科目	災害看護と国際看護 (国際看護)	担当 教員	西川 まり子 若園 尚美	単位(時間数)	1(30)
					担当時間数	8
【西川 まり子】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験20年 国連ニューヨーク本部 UFFPA、UNICEF勤務経験				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		臨床の看護師経験と国連の勤務経験を活かした講義により、国際看護の現状と看護師の役割を学ぶ。				
【若園 尚美】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験38年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院勤務(管理者)の経験を活かした講義により、国際看護における看護師の役割を学ぶ。				
学 習 目 的 ・ 目 標	目的: 施設内看護から視野を広げ、国際看護の現状、国際看護での看護師の役割を学ぶ。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	担当教員	
1	/	世界の国際看護の現状	講義	教室	西川	
		グローバルヘルスの指標				
2	/	国際看護における看護師の役割	講義	教室	若園	
3	/	日本での国際看護の現状	講義	教室		
4	/	日本での外国人の現状	講義	教室		
評価方法	評価は、30点配点とする。(世界地図のテスト・小テスト)					
教科書	なし					
参考書	医学書院 系統看護学講座 災害看護学・国際看護学					
履修上 の 留意点	以下の事前学習をして授業に参加する。 ①ユニセフ基礎リーフレットの世界地図を覚えて授業に参加する。 ②世界子供白書2019<要約版>を読んで、関心を持って授業に参加する。					

※実務経験は令和2年4月1日現在

科目群：統合分野

3年度	授業科目	看護研究の基礎 I	担当 教員	小笠原 順美	単位(時間数)	1(15)
第2学年					担当時間数	15
学習目的・目標	<p>目的：看護研究に必要な基礎的知識を学ぶ。</p> <p>目標：1. 看護研究の意義や目的を説明できる。 2. 文献検索の重要性とその方法について説明できる。 3. 研究における倫理的配慮の必要性について説明できる。 4. 看護研究の対象及び方法について理解できる。 5. ケースレポート・事例研究(ケーススタディ)の意義や目的を学び、看護過程と事例研究の関係を理解できる。 6. 患者の疑問に根拠をもって説明できる。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	備考	
1	/	1. 看護研究の意義と目的 ●患者の疑問を解決しよう(GW)	講義 グループワーク	教室		
2	/	2. 文献検索とその方法 ●グループで、調べ学習の結果を共有	講義 グループワーク	教室		
3	/	3. 看護研究における倫理的配慮 4. 研究デザイン 5. 研究論文の構成とクリティクポイント ●文献を読んで患者の疑問に関する根拠を確認 ●グループでクリティク結果を共有 ●『患者の疑問を解決しよう』GW	講義 グループワーク	教室		
4・5	/		講義 グループワーク	教室		
6	/	6. 事例研究(ケーススタディ)の目的と方法 ・ケーススタディとケースレポートの比較	講義 グループワーク	教室		
7・8	/	7. 成果発表 ・リフレクション	グループワーク	教室		
評価方法	課題と提出物にて評価します。配点は100点です。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 系統看護学講座 専門 I 看護学概論					
参考書	高橋百合子編：看護学生のためのケーススタディ 第4版、第3版、メヂカルフレンド社。 松木孚、森田夏実：わかりやすいケーススタディの進め方。照林社 内田洋子：楽しくできるわかりやすい看護研究論文の書き方、照林社。 金井一薫編：ナイチンゲールの看護覚え書、イラスト・図解でよくわかる、西東社					
履修上の留意点	課題の提出は指定日、時間を厳守する。					

科目群：統合分野

4年度	授業科目	看護研究の基礎Ⅱ	担当教員	小笠原 順美	単位(時間数)	1(30)
第3学年					担当時間数	30
学習目的・目標	<p>目的：受け持ち患者の看護を振り返り、ケースレポートとしてまとめる。</p> <p>目標：1. 研究計画書を作成する。 2. 研究計画書に基づき、レポートの構成を考える。 3. 文献を使って自己の看護の意味づけをする。 4. 自己の看護についてレポートと資料を作成する。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	備考	
1	4/	1. ケースレポート計画書 2. ケースレポートの構成	講義 GW	教室	【持参物】 基礎看護学実習Ⅱの実習記録、メモ帳、領域の実習要領	
2・3	4/	1. 基礎看護学実習Ⅱの看護場面で研究計画書を作成する。 2. 先輩のケースレポートを読む 3. 研究レポートにチャレンジする実習場所を決定(その理由を明らかにする) 実習中の留意事項について 4. 3回目の授業終了後、研究計画書を提出(課題)	講義 個人ワーク	教室		
4	5/	1. グループ内で、研究計画書を発表 メンバーより、講評を受ける	グループ ワーク	教室	研究レポートをまとめる病棟を調査	
5～7	7/	1. 研究計画書をもとに、ケース・レポートを構成する。 1)仮のテーマを決める 2)研究動機と研究目的を明確化する なぜこの事例を振り返ろうと思ったのか、どのような視点で自分のケアをふりかかると明らかなにする。 3)事例の全体像を整理する。 4)看護の実際を整理する 看護問題と看護目標、看護問題を解決するために立案したケアの実施の詳細とケアを受けた対象の変化を示す。ケアの結果をどのように評価して次のケアに継続させたのか、患者の変化はどのように積み上げられて患者目標へと近づいていったのか時系列に示す。 5)考察に必要な根拠を明確化(根拠となる文献を整理する) ケア場面で実際はどのようなことが起こっていたのか、自分が実践したケアにどのような意味が含まれていたか、どのようなことが足りなかったのか、ケアを改善していくためには今後どのような工夫が必要か、看護の実施と結果に対する自分の考えを表現する。次いで、根拠となる文献を探し考察する。 6)結論を明確化 自己の実践を論理的に振り返った結果として、明らかになったことを表現する。	講義 個人ワーク	教室 図書室 視聴覚教室	・研究計画書を期日までに提出する。 ・5回目の授業開始時、研究計画書、実習記録、必要な資料を持参する。	

8~ 11	7/	2. レポートとして文章化する。 テーマ はじめに Ⅰ. 患者紹介 Ⅱ. 看護の実際 1. 看護問題 2. 看護目標 3. 看護の実際 Ⅲ. 考察 Ⅳ. 結論 おわりに 引用・文献	講義 個人ワーク	教室 図書室 視聴覚教室	
12 ~ 14	7/	5. グループ内でレポートの発表を行い、視点にそって評価(良い点・改善点)しあう。 誤字・脱字、句読点、文章のねじれなどを指摘し合い、修正してレポートを完成する。	講義 グループワーク	教室 図書室 視聴覚教室	
15	7/	6. 補助資料(全体像モデル・指導リーフレット)を完成する。	講義 個人ワーク	教室 演習室 視聴覚教室	16:30研究 レポート、 全体像モデル、抄録提出
評価方法	課題:研究計画書(20点)とケースレポート(80点)で総合評価します。 ※ケースレポート内容不十分の場合は、深化指導をします。				
教科書	医学書院 系統看護学講座 別巻 看護研究 松本孚, 森田夏実:看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方.照林社 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 看護学概論				
参考書	メヂカルフレンド社 『看護学生のためのケース・スタディ 第4版』				
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・春期休暇中に分かりやすいケーススタディ PartⅣ P135~251を読む。 (研究Ⅰで学習したケースレポートの構成とポイントを意識する) ・春期休暇中に基礎看護学実習Ⅱの関わりでケースレポートをまとめようと思った看護場面を思い浮かべる。 ・第3回目の授業期間で、3年次4月~6月の実習のどこでケースレポートをまとめたか決める。 ・4月~6月末までの実習中に、研究計画書を作成し実習担当教員から指導を受ける(2回まで)。 ・5回目(7月)の授業前に研究計画書提出。5回目授業では必要な資料、文献を準備し持参する。 ・レポート・資料作成は、視聴覚教室の自分のパソコンを使用する(データの保存管理は各自で行う)。 ・課題の提出は、指定日・時間を厳守する。 				